

GL アクティブ（国内研修） 実施講座名『東京外国語大学 SGH 研修』

- 1 目的 多文化共生等のグローバルな問題に関連する分野を研究している研究室や授業等を見学し、SGH 研究課題を見つける一助とする。
- 2 日時 10月3日（月） 午前7時～午後3時
- 3 参加生徒 20名（1，2年生）
- 4 場所 東京外国語大学 府中キャンパス（〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）
- 5 内容 講師 東京外国語大学大学院総合国際学研究院／准教授 左右田 直規先生



講義は日本とマレーシアの関係について、ルックイースト政策に見られる「日本から学ぶ」という関係から、「アジアの縮図」といわれるマレーシアから日本も学ぶ「共に学び合う」関係に変わってきているという話題から始まった。その後、ともに多民族国家であるマレーシアとシンガポールの多民族共存に対する意識の差異から、

- （1）「国民」や「国家」を、歴史的に作り上げられる現在進行形のプロセスとして捉えること
- （2）地域に根差した多民族共存のあり方を考えるということについてお話しいただいた。



施設見学では、図書館や研究講義棟、学生寮、運動場等を案内していただいた。

## 6 生徒感想

- ・「多文化が共存する方法をマレーシア・シンガポールを例に学んだことで、難民を受け入れる時の社会の仕組みを考える上でのヒントになったと思う。」
- ・「模擬講義でやっていたように、何かについて発表するときに、他のものと比べて説明すると分かりやすかったので、課題研究に活かせると思った。」
- ・「色々な国の人と勉強できるのはとても良いことだと思いました。」

## 7 成果と課題

今回の『東京外語大学 SGH 研修』では、ある地域を総合的に捉えることから現代において世界が直面している課題を考えることや、他の地域と比較して研究することについて学習した。課題研究につながる発見があったり、研究方法を学ぶよい機会になったと思います。今後も大学と連携をとることが SGH 研究課題に必要なだと思われます。SGH ガイダンスで説明した 1 年生のゴール（目標）

- ① 全員が海外に自信をもって発信できる、日本の歴史、伝統、文化を語れるようにする。通史的なことではなく、自分が語れること。
- ② 研究したいグローバル社会における課題（日本を中心に考えてもよい）を見つける。国際課題の解決に向けて、日本人に何ができるか、研究する。
- ③ 英語のプレゼンができるようにする（プレゼンの手法も含めて）。
- ④ 課題研究の進め方を理解する。

のうち、①、②、④の参考になったと思います。